

組織的調査研究活動推進事業(佐井地区)

田村 真通・天野 勝三

発 表 誌 名

昭和 58 ・ 59 年度組織的調査研究活動推進事業報告書

抄 録

1. 下北郡佐井村を活動の対象地域とし、研究・行政の両部門からなる活動チームにより当該地域における漁業振興上の技術需要に対応する指導方針を確定すると同時に、重要試験、研究課題を摘出し、その解決促進をはかることを目的として調査を実施した。
2. 漁民意識調査、漁獲状況調査、漁業収支状況調査を実施した。その結果、漁民の意識としては「漁業では食べていけない」、「子供には後を継がせたくない」というマイナス面の意識が強い反面、「経営規模を拡大したい」、「養殖技術を身につける」等により、漁業を継続したいと考えていることがわかった。また、漁獲状況をみると、総漁獲数量は昭和 53 年以降、急激に減少しており、この減少は主としてイカナゴ漁獲量の減少によるものと判明した。漁業収支の状況では、採貝、採藻を主とする階層において、漁業粗収入の低さが問題となるように思われた。
3. このようなことから、本地区においてはイカナゴの資源動向や海況変動との関連についての研究が急がれ、また、増殖場造成等による沿岸漁業振興の施策が望まれる。